

## 資料紹介

## 松本治一郎記念会館旧蔵資料

——松本治一郎関係書簡・資料から(その一)——

本多 和明

## はじめに

部落解放・人権研究所では、松本治一郎記念会館で収蔵されていた資料を大阪の部落解放・人権研究所図書資料室(りぶら)へ移動して、本格的な整理を二〇〇一年四月から行ってきた。

この資料は、一九四〇年代後半から七〇年代に中央本部に集められた部落解放運動関係資料で、松本治一郎・英一関係資料(以下、敬称略)、中央本部関係資料、都府県連関係資料等、二万点からなり、戦後部落解放運動関係資料としては最大規模である。この間、順次、目録化と永久保存対策の作業を実施しているが、このうち、松本治一郎関係の資料の整理がほぼ終了した。

松本治一郎記念会館に保存されていた松本治一郎宛の書簡は、一九四五年から六六年一月の没年まで、計一〇八〇通である。一九五九年が二八二通で一番多く、続いて五六年の一一三通となっている。それ以外に一〇〇通を超えた年はない。郵便物は大量にあったはずで、残されている郵便物はごく一部であろうと推察される。

なお、書簡以外にも、新聞・雑誌記事、国会質問、国際会議での演説原稿や選挙演説の原稿、各種団体の案内文や報告書、選挙の一件資料等が残されている。

これらの資料のうち、松本が関わった解放運動や社会運動にもなっておりとされた書簡・資料については、個人のプライバシーに配慮しつつ、順次、本紀要で資料紹介するとともに、ホームページ等で公開をしていきたいと考えている。

資料の整理は、本多和明（部落解放・人権研究所図書資料室）、久保在久（近現代史研究者）が担当した。所蔵資料からの引用は、一部現代表記に変えたり、省略して抜き書きしているものもあることをご了解いただきたい。なお、本文中、敬称は略させていただいた。

### 敗戦を前にして―芦田均からのハガキ

福岡市馬出 松本治一郎様

神奈川県鎌倉市大佛常盤山 芦田均

折にふれて思ひ（い）出し 君に逢いたく存居候（ぞんじおりせうろう）

次回御出京の節は枉（ま）げて御来駕被下度（ごらいがくだされたく）待ち居候（まちおりせうろう）

御健祥を祈上候（いのりあげせうろう）

六月一日

拝具

注…（ ）内に、現代表記および読み下し文を補っている。

松本と親交のあった人々との心温まる交流を窺うことのできる書簡の一つである。政治家では、芦田均と戦前

から親交があったようで、敗戦を前にして松本の来訪を請う一九四五年六月一日付ハガキが残されており、とても貴重なもの。

芦田は一九三一年、柳条湖事件の勃発に戦争への危機感を抱き外交官の辞職を決意、翌三二年、立憲政友会公認で衆議院選挙に立候補し当選。外交問題について軍部の圧力に屈しがちな政府の外交方針に鋭く迫ったこと、一九三五年、美濃部達吉排斥運動が起きたとき、美濃部を擁護するため率先して奔走したこと、一九四〇年、反軍演説をおこなった斎藤隆夫が懲罰動機により除名されたとき反対票を投じたこと、同年、大政翼賛会運動が起ったときには、議会政治を否定するものとして翼賛議員同盟の結成に参加せず、尾崎行雄、鳩山一郎、川崎克らと「同交会」を組織し、一九四二年の翼賛選挙には非推薦で出馬し当選したことなどが筋金入りのリベラリスト・民衆政治家として高く評価されている。

一九四三年、芦田は、戦火が激しくなるなか東京都牛込区牛込中町を引き払い、鎌倉常盤山の友人菅原通済の別荘に疎開し、そこで敗戦を迎えた。一九四四年九月二十九日から、後に貴重な歴史証言として有名になる『芦田均日記』が書き始められるが、すでに周囲から戦争処理内閣の外務大臣として推される動きが記されている。松

本苑のハガキは残念ながら『菅田均日記』には触れられていないが、同日記の一九四五年六月一日のページには「昨日は久しぶりに横須賀線が復旧したので朝の汽車で東京に出た。途上に見た横浜の変貌は心を痛ましめる。一面の焼野原がかつての関東震災の日を偲ばせた。(中略)：牛込の旧宅も二十六日に烏有に帰したと聞く。かようにして昔の東京は殆んど影を潜めた。顔を合せて談りしたい友はあっても、逢うべき場所も焼け落ちていた。偶々逢うことはあっても恐らくは煎茶の一杯さえ飲むつてもあるまい。落莫たる街のたた住居である。」と記され、日本の戦後復興にむけて、旧友・松本の意見を是非とも聞きたかったにちがいないと推測される。

敗戦、一九四五年九月四日、第八八回帝国議会が招集され開院式が行われたその日に、菅田は質問第一号として「大東亜戦争を不利なる終結に導きたる原因並其の責任の所在を明白にする為政府の執るべき措置に関する質問主意書」を提出した。同日、質問第二号として松本が提出した「戦災者救済ニ関スル質問主意書」は、「大東亜戦争は、我国歴史に類例なき大敗北を以て終結を告げた。而して戦禍は全国土に及び空襲により焼燼せられたる戸数は二百三十万戸、罹災せる同胞の数は実に一千万人に垂んとしている。これら戦災者の多くは直ちに一家

を構える能はず。家族を分散せしめ或は他家に同居し又焼跡にささやかな仮小屋を急設して文字通り着のみ着のままにて僅かに雨露を凌いでいる悲惨極まる状況にある。(後略)：」で始まり、一、陸海軍高級将校が軍需物資を隠匿、又は私物化して売却した責任の追及と調査、二、仮設住宅の建設の促進、三、軍需工場鉾山の寝具等を回収して戦災者に給与せよ、というもので、後に総理大臣に就任する菅田、鳩山一郎をはじめ、「反軍演説」で知られる斎藤隆夫や「憲政の神様」と呼ばれた尾崎行雄、戦後社会党再建に力を尽くした水谷長三郎、西尾末廣など、三一名が賛成者に名を連ねた。

戦後、菅田は一九四六年自由党から出馬し当選、敗戦直後の日本政治の中心人物の一人だった。憲法改正特別委員会委員長に就任し、憲法制定に関与した。菅田は、日本国憲法第九条第一項の戦争放棄を確実なものとするため、軍隊保持を禁じている第九条第二項に「前項の目的を達するため」という語句を加えた(菅田修正条項といわれる)。改正憲法案は衆議院貴族院両院の審議にかげられ、両院三分の二以上の賛成を得たのち、一九四六年一月三日公布された。一九四七年自由党からただひとり脱党して、日本進歩党と共に民主党を結党、党総裁に就任し、片山哲内閣の外務大臣就任。一九四八年三月

一〇日に内閣総理大臣に就任するが、昭和電工事件に巻き込まれ、一〇月七日に総辞職、一二月七日芦田自身も逮捕（後に無罪判決）。一九五九年六月二〇日、芝・白金の自宅において死去した。

『芦田均日記』の一九四八年一月六日のページには、「快晴 外務省へ行き弁当を食い、午後は有楽座へ行つて（松本治一郎氏への義理で顔を出した）破戒を一時間許り見た。」とある。一九四八年一月二日から二五日間東京の有楽座で上演された『破戒』は、丑松を宇野重吉、猪子蓮太郎を滝沢修、お志保を山口淑子が演じ、連日満員の盛況で、のべ六万人をこえる観客を動員したが、松本は参議院議員全員と衆議院の社会党議員、首相の片山哲以下全閣僚を招待した。このときのことを記したものだ。た。

### 参考文献

- 芦田均著、進藤栄一ほか編纂『芦田均日記』第一―二巻、岩波書店、一九八六年
- 宮野澄著『最後のリベラリスト・芦田均』文藝春秋、一九八七年

### 民族教育への弾圧を乗り越えて

#### —東京都立朝鮮人学校PTA連合会からの手紙

一九五二年一〇月二二日、東京都立朝鮮人学校連合運動会に、松本は花環を贈呈し、関係者から感激と感謝をされた。やや長文にわたるが、重要な内容を含んでいるので、礼状の全文を掲載しておく。

この御厚情は運動会に集った大衆ばかりでなく六十万同胞にも同じき感謝と感激を与えることでしょう。

大運動会は警察官憲の妨害にもかかわらず大衆に守られ大衆の中に育った五千の児童と生徒達は意気揚々と日頃の訓練と組織力によって大成功裡に終了することを得ましたことは更に大きな自信と覚悟を与えたのであります。

世界の勤労者階級が平和を渴望しているにもかかわらず、一握りの独占資本家共が自己のあくなき利潤追求の為に戦争を挑発し我が祖国の山河は焦土と化しました。無辜の民は父母兄弟を失ひ飢餓にあえいでいる時、血ぬられた金を儲けてほくそえんでいる一部反動共の罪悪は人類道徳上許さるべきものではありません。米帝のあくなき世界支配の野望とその手先反動吉田政府は世界の民主平和勢力の増大と共に日増に高まって行く日本の平和

勢力をおさえ、日本をしてアジア侵略の地盤たらしめんとして帝国主義の復活に努めています。しかし人類の歴史は正しく平和の道を指向しているし、日本の歴史そのものも正しき方向へと進んでいます。このことはアジア太平洋平和会議が北京で開かれることによって、ここに結集された各国の強き意志表示が何よりも明確に示していると思います。

先生は日本の平和のとりでとして、否世界の平和のとりでとして、日本八千万民族の平和使節として、この歴史の会議に参加しようと心命を投げ打って斗ったことを我々はよく知っています。この崇高なる御精神をかげがえのないものとして八千万民族は胸にたたんでいることと信じます。しかし野獸共の妨害でとうとうこの崇高なる使命が達せられず北京会議に御参加できなかつたことはかえすがえす残念でなりません。戦争屋共に限り無き憎悪を抱くのであります。

先生の御心状を察するに余りあります。

在日朝鮮人が民族的差別と共に世界の平和、就中朝鮮の平和の為に勇敢に斗っていることは御存じのことと申します。戦争犠牲を何時の世に於ても一番受けて来た民族であればこそ平和への欲望は切実なものであります。

在日朝鮮人が解放と同時に民族教育を叫び粒々辛苦を

積み重ねて今日やっとその成果を得ようとする時、日本の反動共は機会ある毎にあらゆる誹謗と中傷によってこれを抹殺しようとしています。東京に於ては現に都立校として平和的民主的な教育を実施してその成果は二十一日の連合大運動会には如実に発揮されました。当日見物された体育専門家達はこの恐るべき成果を激賞して呉れています。この事実と反してあらゆる誹謗によって都立校を廃止し私立学校に移管してその果は民族教育を抹殺すべく廃校に導こうとする陰謀を東京都並に日本政府は企んでいるのであります。我等はあくまでこれ等の陰謀を暴露して斗っているし斗うつもりです。どうか先生に於かれては多事多難な御繁務とは存じますが、倍旧の御声援と御鞭撻の程を御願ひ致します。

平和のとりである先生の御健康を御祈りすると共に我が連合運動会によせられた御厚志に深く感謝致します。

手紙にあるように、戦後、在日朝鮮人の子どもたちに對する教育は非常に困難な状況に追い込まれていた。一九四九年九月、法務総裁は団体等規制令違反を理由に在日朝鮮人連盟（朝連）の解散を命じ、一〇月には、文部省管理局長・法務省特別審査局長共同通達を出した。その内容は、①旧朝連設置の学校については廃校になつ

たとして処置する、②無認可の朝鮮人学校（民団系含む）に解散を勧告し、応じない学校は二週間以内に私立学校の認可申請をしなければ閉鎖する、というものだった。一〇月一九日には「（第二次）学校閉鎖令」（九二校）を發布し、多くの朝鮮学校を武装警察官によって強制閉鎖した。また、一月四日「改組令」（二四五校）を強要し、学校改組の勧告に応じない学校を自動的に閉鎖し、ついで私立学校認可申請手続きをした一二八校については、文部省で一括審査し、大阪の一学園三校（白頭学園建国小・中・高）以外をすべて不認可として閉鎖を命じた。

同年一月二〇日、東京都教育委員会は、「東京都立朝鮮人学校設置に関する規則」を制定し、「朝鮮人学校取り扱い要綱」を發布した。これにより、都内の朝鮮学校一四校はすべて都立学校になった。五五年三月には、東京都立朝鮮人学校などそれぞれまで公費で運営されてきた朝鮮学校在日朝鮮人の自主的運営に戻すという名目のもと、都立朝鮮人学校は、一四校すべてが廃校となり、自主学校に移行した。同年に在日朝鮮人総連合会（総連）が発足し、朝鮮学校は再建されることになる。

#### 参考文献

枝川裁判支援連絡会編『とりあげないでわたしの学校 枝川朝鮮学校裁判の記録（第一集）』樹花舎、二〇〇六年

### ～2007年度（新規・継続）正会員（個人会員）募集～

正会員は、(社)部落解放・人権研究所の目的に賛同し、定款第三章（会員）に同意された個人を対象とし、様々な特典があります。ご入会は随時受付中ですので、詳細は総務部まで（TEL：06-6568-0905/FAX：06-6568-0714）。

【年会費】7,000円（学生：4,000円）

#### 【特典】

1. 紀要『部落解放研究』（1,050円×6部）を無料配布いたします。
2. 部落解放・人権研究所、解放出版社の発行図書購入にあたって値引きいたします（原則として2割引）。
3. 人権・部落問題切抜情報ジャーナル（年12部）を実費頒価にてお分けいたします（申し込みは研究部まで）。
4. 『研究所通信』を毎月1回お送りいたします。
5. 図書資料室（りぶら）を優先利用いただけます（閲覧は無料・コピーは有料）。
6. 登録制ホームページをご利用いただけます。
7. 各種催し物のご案内をお送りいたします。
8. 研究部会活動にご参加いただけます。